



選ばせた。

蕎麦処 阿蘇の風 上野博行



中華? そんなの聞いたことがないぞ」と

特徴でいこうと決めたのだ。「蕎麦と

といっしょに始める店なのだから、そういう

いう声には、まあ召し上がってください、

である。

→ 大学は法学部で学び、法律家

驚きと納得を差し上げたい。というのが

「阿蘇の風」店主、上野博行さんの主張

の料理をアレンジした。東京にいたころ

阿蘇の水で磨いた手打ち蕎麦に、中華風

知り合った、生まれも育ちも北京の妻

ボーイスカウトで経験した草原が忘れられなかっ 迷わず阿蘇に気持ちが傾いたのは、少年時代の 就き、定年を迎える。第二の人生をどこで過ごすか。 変え、別の意味で世のため人のためとなる職業に か懐かしく癒されるのは、あのツルツル感だろう。 蕎麦。震災というつらい体験のなかにあっても、どこ 余ってしまっては知人に配って回る日々がつづき おぼえてスタートしたのは二○一四年の師走だった。 即決だった。

まったくの素人だが、蕎麦屋を始め を目指した時期もあった。思うところあって道を ました」。┛日本人にとって特別な食べものである 「はじめはどのくらい作ればよいのか見当もつかず、 まで、さまざまな師に教えを請い、どうにか手応えを ようと決断する。打ち方からそばつゆの作り方 たからだろう。売りに出ていた空き家を見つけた。

人の力を 信じる。 阿 蘇の 誇りと実りのブランド

